



例 会 報 告
第 3 1 0 回 「サガ電子工業」工場見学
佐賀市 (2022.1.16)

今年 1 発目の例会は工場見学。久保泉町の第二久保泉工業団地内にあるサガ電子工業に多くの団員さんが集まりました。到着したものの、蔵造りの外観に「本当にここが工場なの」と半信半疑状態。建物の説明はあとで行うことにして、さっそく工場の 2 階におじゃまし、生産しているアンテナの説明を受けました。説明していただくのは、サガ電子工業代表取締役の小柳謙治社長さん。アンテナの説明をするためには、電波についての説明が不可欠で、難しい専門用語が飛び交うかと思いきや、小さな子どもたちにも分かりやすい説明と、電波の形（波形）を画面に映し出してもらうことで、子どもたちからの鋭い質問が出るほどでした。電波を出したり（発信）、受けたり（受信）するためのアンテナ。発信側のアンテナからは電波のエネルギーによって熱も出ているそうです。発信側から出た電波は、石を水面に落としたときに広がる輪のような模様となります。受信側のアンテナは、その電波を 1 つにまとめる役割をします。アンテナの長さを調節したり、角度を変えたりすることで、電波をまとめ、発信側からの電波の情報を失うことなく得ることができるのです。実際に、小柳さんの「右（アンテナの向き）見てえ、左（波形の画面）見てえ」の合図で、アンテナの向きで受信状態を確認することができました。逆にアンテナの先端を手で触れたり、近くに金属などがあったりすると波形が小さく変化することも分かりました。家庭にある Wi-Fi ルーターの電波が届きにくい場合の対処法として、階段の壁にアルミシートを張り、電波を反射させて遠くまで届く工夫をすればよいそうです。アルミシートにポスターを張ってもよいそうです。

では、本題？のなぜ工場が蔵造りなのかについてです。工場見学の中で、小柳さんのこだわり（ホームページには“趣味”と掲載）をうかがいました。小柳さんがたまたま酒蔵や古民家に入った時に、「こんなところで仕事ができたらいいなあ～」とやすらぎを感じたそうです。そして、武雄市若木の造り酒屋で使わなくなった酒蔵と、西有田町の小民家の米蔵と納屋を譲り受け、移築して新工場を建てました。最近の脳科学の研究でも、合板などの新建材の家よりも天然材の家の方が疲れた脳が回復しやすく、体も活動的な状態になるという実験結果が出ているそうです。また、鉄筋や鉄骨の建物より木造の方が電波の影響を受けにくく、工場での作業がしやすいという利点もあるそうです。

工場内は水冷式の空調（ファンコイル）が整備されてありました。くみ上げる井戸水の水温は、夏も冬も 19℃くらいで、これをファンコイルに通す事で、夏は涼しく過ごすことができます。さらに、冬は部屋を暖めることもできるのです。見学した日は、薪ストーブも使っていただきました。ここにも電力に頼らない小柳社長のこだわりがあったのですね。電波のエネルギーを操る仕事を極めておられながら、大地、風、太陽の自然のそのまのエネルギーを生活に生かそうとも実行していたのですね。

工場見学の最後には、機械を使って同軸ケーブルを加工する体験をさせていただきました。子どもたちは簡単にできて面白がっていましたが、このケーブルがどこに使われているか分かりますか。家庭でも必ずあると思いますよ。最後に、貴重な体験と自然を大切に使うていくことの大切さを教えていただいた小柳社長さんに感謝申し上げます。ありがとうございました。（参加者 42 名）

参加者の感想から

田端 りきたか	アンテナのケーブルを切る体験が意外に簡単でした。また、くらを移築した外観が、久保泉工業団地のなかでひとときわめだちました。
進 光宏	電波が何かを近づけたら変わるのが不思議でした。
大峰 匠平	工場見学にサガ電子工業に行きましたが、古民家が工場とは最初思っていませんでした。アンテナの話より建物の話が気になりました。



蔵づくりの工場で・・・



小柳社長さんからアンテナの話聞く



はい 右みてえー、次 左みてえー



波形が変わったぞ！！



工場内に設置の水クーラー（ファンコイル）



エアコンがなくても寒くなかったよ



加工後のケーブルの先端

同軸ケーブルの加工体験



質問に熱心に答えていただきました